

## 令和元年度 学校評価書

四万十市立下田中学校  
学校長 山崎 利彦 印

## 1. 学校教育目標

やさしく つよく かしこい生徒の育成

## 2. 本校の現状

校内研や授業改善の取組に関しては、教科間連携の取組が浸透したことによって、教職員が組織として取り組んでいこうとする風土が高まっている。このことは、昨年度の学校評価アンケートで「授業の工夫をしている」の肯定的評価が100%であったことから、教員の学力向上への意識の高揚がうかがえる。学力的な数値面では、昨年度の全国学力学習状況調査において国ABで+6.7P、数ABで+1.6Pであり全国平均以上であったが、本校の目標値であった全国平均5p以上は、数学で達成できなかった。また、高知県学力定着状況調査でも、県平均+10p以上を達成できた教科は、現2年生は1教科(国)、3年生は2教科(国、社)であった。この結果から分かるように、国語は一定の成果が見られるもの他教科においては、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力ともに課題が見られる。これらのことから、これまで取り組んできた教科間連携の取組を活かし、授業改善の更なる推進を図って行きたい。

また、これまでの道徳や人権の意識調査、Q-U調査等を通じて自己有用感の低い生徒も多いことが学校の課題としてあげられる。教育活動の中で生徒の達成感や満足感を高めることはもとより、各関係機関との連携をさらに進め、若草園在籍の生徒支援の充実にあたる必要がある。また、個別支援が必要な生徒には、校内支援会議での取組を共有し、支援の充実に努める。

## 3. 本年度の評価項目

## [1]学力向上

- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
- ②子どもにわかる授業づくり
- ③予習・復習の質と量を高める取組

## [2]生徒指導

- ①いじめの防止等のための取組
- ②不登校の対応
- ③豊かな心の育成

## [3]学校・家庭・地域の連携・協働

- ①小中の円滑な接続の推進
- ②みんなであいさつ運動(市独自)
- ③地域との連携(※学校地域支援本部事業の推進)

## [4]働き方改革

- ①定時退校日の設定と退校時刻の遵守
- ②部活動ガイドラインに基づく部活動運営

## [5]小中連携教育の推進(防災学習等の連携)

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策
大	中				
〔1〕学力向上	①学力向上のための組織的な研修等の取組	<p>○教科間連携の取組を核とした授業力向上に努め、全教科で研究授業を実施。</p> <p>○全国学テ、県版学力テにおいて全国平均以上、県平均+10P以上。</p> <p>○教科の枠を越えたチーム会や参観授業等の日常的なOJTを実施し、教員同士が切磋琢磨する機会の充実。 (※チーム会の開催回数等)</p>	<p>○教科間連携の取組を中心としたチーム会は計画的に実施し、各教科の授業改善の協議の場とした。今年度、特に学校として留意して取り組んだ内容は、以下の3項目である。 (1)スモールステップで評価し、学習の達成感を持たせる。 (帯タイムと小テストの充実) (2)個人志向はインプット、グループ活動はアウトプットを意識した指導を行う。 (3)自分の言葉で表現する振り返りの充実。</p> <p>○全国学力学習状況調査結果【中3】 国語89.0(全国比+16.2P) 数学55.0(全国比-4.8P) 英語54.0(全国比-2.0P)</p> <p>○高知県学力調査結果【中1・2年】 1年：国62.5(全国比-2.4)、 社49.8(全国比-5.5)、 数57.2(全国比+0.6)、 理54.3(全国比-0.2)、 英42.8(全国比-19.8) 2年：国69.7(全国比+4.0)、 社52.4(全国比+3.0)、 数63.2(全国比+11.1)、 理57.8(全国比-0.5)、 英52.9(全国比-4.4) 2年生は英語を除き概ね全国と同等かそれ以上の結果であるが、1年生の学力面で課題を残した。</p> <p>○チーム会は年間で55回実施。各教科の授業研及びミニレポートの交流は効果的であった。</p>	2.5	<p>①教科間連携の取組を継続して行う。【組織体制】</p> <p>②教科ミニレポートは継続。公開授業は教科のみならず、道徳・人権等の授業も組み込みたい。 【取組内容】</p> <p>③公開授業後の協議はその日か同一週内で行い、授業協議がリアルタイムでできるように工夫する。 【チーム長の役割】</p> <p>④学力調査の指標は、<u>全国</u>を+3P上回ることで統一する。特に学力を下支えし、学年が進む中で確実に力をつけさせる指導を徹底する。 【指標の明確化】 ※課題のある問題の追指導、個別指導、定着状況の見取りを確実に行う。(研究主任・管理職の確認)</p> <p>⑤ノートの「振り返り」を月1回掲示する。 【生徒への意識化】</p>
	②子どもにわかる授業づくり	<p>○指導主事を招聘した研究授業・校内研修の実施。</p> <p>○学校評価アンケートにおいて授業についての肯定的評価100%。</p> <p>○授業力チェックシートの総合評価で3.5P以上。</p>	<p>○全校研に関しては指導主事を招聘し、計画通り実施できた(6回招聘)。また、校内研修に対する教員の有用感100%であった。(学校評価による検証で全員が肯定的評価)</p> <p>○授業に対する生徒の肯定的評価は92%。2名の生徒が否定的な評価であった。</p> <p>○授業力チェックシートによる検証は、教員による評価の平均が3.5P、生徒からの評価の平均は3.8Pであり、全体的に高評価であった。しかし、生徒からの評価を過大評価しないように留意し、授業改善にあたった。 (校内研で確認)</p>	3	<p>①全校研に係る公開授業には、<u>指導主事を招聘し継続して充実を図る。</u> 【校内研修の充実】</p> <p>②1校1役の予算を活用し、<u>外部講師を招聘した授業づくりの研修を行う。</u> 【校内研修の充実】</p> <p>③研究主題に即し、<u>主体・対話・深い学びの実現の視点で授業づくりを継続する。</u>【研究の方向性】</p>
	③予習・復習の質と量を高める取組	<p>○宿題提出率100%を目指す。</p> <p>○家庭学習1時間以上の定着率100%を目指す。</p> <p>○自主学習ノートの内容・質を高める。</p>	<p>○全体的な宿題の提出率は7~8割程度。1年生の提出率が低く、上級生になるほど提出率が高い。</p> <p>○家庭学習の時間では、1時間未満の生徒が24%いる。特に1・2年生にその傾向が強い。生徒の状況として通信機器の利用で夜遅くまでゲーム等をする課題がある。</p> <p>○自主学習ノートに関しては、goodノートは掲示したり、学習発表会で展示したりして生徒の意識向上に努めた。生徒による相互評価等の取組(生徒会の取組)とも関連させ、充実を図ろうと努めた。</p>	2	<p>①宿題の質・量の再確認を行い、年度当初に統一して生徒に指導を行う。(朝の提出→未提出者は休み時間・放課後等を活用して提出 ※5時まで。部活動はその後に参加) 【指導の徹底】</p> <p>②基本的な生活習慣の確立と宿題の習慣化は継続して保護者に啓発を行う。</p> <p>③よい自主学習ノートは継続して掲示する。</p>

2 生徒指導	①いじめの防止等のための取組	<p>○家庭等に「下田中学校いじめ防止基本方針」を学校通信等で周知する。</p> <p>○学期毎に生活アンケートを実施し結果を公表するとともに、必要に応じた面談や家庭訪問を実施する。</p> <p>○「安心して学校生活を送れる」と肯定的に回答する生徒・保護者を100%とする。</p>	<p>○いじめに関する学校の取組や生徒の実態は、学校便りや学級通信等で定期的に発信し、生徒の良さと課題を共有しようと取り組んだ。</p> <p>○学期ごとに生活アンケートを実施し、いじめの把握と生徒の心の把握に努めた。その中で、2学期にいじめの事案として取り組んだ内容がある。学校全体の課題として全教職員で対応すること、保護者に取組を理解してもらうこと、該当生徒や学年の生徒に課題が浸透することに留意し指導を行った。指導を経て生徒も一層落ち着き、成長していると判断している。</p> <p>○学校評価で「安心して学校生活を送れる」と肯定的に回答する生徒は92%、保護者は94%であった。目標とする100%に届かなかったものの、多くの生徒・保護者が学校が安心できる場所だととらえている。</p>	3.5	<p>①年度初めの参観日・PTA総会で、学校としてのいじめの取組、学校生活アンケートの実施について周知し、保護者と共通理解を図る。【学校の取組周知】</p> <p>②学期ごとの学校生活アンケート、年2回のQ-Uの実施と事後の面談。 【早期発見・対応】</p> <p>③学校評価アンケートで保護者・生徒の意見把握。 【取組の検証と評価】</p>	
	②不登校傾向の生徒への対応	<p>○校内支援会議の実施と教職員の情報共有をもとに、個別支援の充実を図る。(必要に応じた居場所づくりの確保)</p> <p>○Q-Uの学級生活満足群90%以上を目指す。</p> <p>○SC、SSW、若草園等との連携を推進。</p>	<p>○SCを交えた定期的な校内支援会議、毎週の生徒の情報交換も全体で実施し、生徒理解と生徒支援に努めた。また、個別の支援が必要な生徒への対応も巡回教育相談や外部講師を招聘した校内研修を行い、教職員の共通理解を深めた。</p> <p>○Q-Uの学校満足群は85%。</p> <p>○若草園を含めた関係機関との連携は密にとり、生徒対応や保護者対応に活かした。</p> <p>○昨年度、別室登校だった生徒が教室の学習に取り組み出した半面、2学期途中から1年生1名が不登校状態となった。定期的な訪問を継続するとともに、保護者との連絡も取りながら関わりを保っている。</p>	3	3	<p>①職員会・校内研で生徒の情報交換を確実に行う。 【生徒の情報共有】</p> <p>②支援が必要な生徒への支援会議をSC来校日に設定する。 【校内支援委員会】</p> <p>③月1回の若草園との連絡会を継続する。 【関係機関との連携】</p> <p>④学校として、担任を中心にしながら不登校生徒への対応を継続する。その中で学校復帰を目指す。 【不登校の対応】</p>
	③豊かな心の育成	<p>○指導主事を招聘した道徳の授業研究の実施。</p> <p>○朝読書・読み聞かせの継続実施。</p> <p>○学校評価の「あなたは学校の生活規律を守り生活しているか」で肯定的評価100%を目指す。</p>	<p>○1学期に道徳の研究授業を実施。その校内研修には指導主事を招聘し、評価のあり方について研修を行った。3学期には校長の授業も校内研修として実施し、授業のあり方について研修の場とした。</p> <p>○ボランティアによる読み聞かせは計画通り実施。生徒も毎月の実施を楽しみにしている。</p> <p>○学校評価で「生活規律を守り生活している」と肯定的評価をした生徒は96%。1名のみがやや守れていないと回答したものの、日々の学校生活の中では、全員の生徒が生活規律を守っている。(教員による内部評価では肯定的評価が100%)</p>	3		<p>①道徳の授業教材を整備していくとともに、道徳の授業研も校内研修に組み込む。また、道徳参観日もこれまで通り実施する。 【道徳教育の充実】</p> <p>②機会ある毎に挨拶・返事、整理整頓ができる力の大切さを伝え、生徒の道徳的実践意欲・態度を高める。</p> <p>③学期ごとの学校生活アンケート、年2回のQ-Uの実施と事後の面談。 【前掲：早期発見・対応】</p> <p>④朝読書ボランティアの取組を継続する。</p>

〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な接続の推進	<p>○学校地域支援本部会を小中合同で年2回開催。</p> <p>○小中合同校内研修の実施。(夏期休業中)</p> <p>○小中の授業参観の実施。(年間3回以上)</p> <p>○校区で統一した「学びのスタイル」の取組の徹底。</p>	<p>○学校支援地域本部会は、年2回下田小中合同で実施し、地域と意見交換を行うことができた。協議も活発で、学校の取組・課題を共通理解する場となった。</p> <p>○校区の小学校との合同校内研を夏季休業中に実施し、子どもの課題を共有し合った。小中の教員がつながりをもつことと、取組に系統性を持たせることを再確認した。</p> <p>○小中の授業参観は年2回にとどまった。</p> <p>○校区で統一した授業スタイルは、各校で意識して継続して取り組んでいる。</p>	2.5	<p>①学校支援本部事業の推進は、今年度の取組を継承し、次年度も地域と協働した取組を推進する。特に<u>情報発信</u>に留意し、<u>取組を地域に周知</u>していく。</p> <p>【情報発信】</p> <p>②<u>地域のことを学ぶ小中合同研修</u>を年度当初に計画する。【合同研修】</p> <p>③授業改善に係る授業づくりの方向性は継続する。</p>
	②みんなであいさつ運動	<p>○生徒会を中心とした朝の挨拶運動の実施。(年5回以上)</p> <p>○校区の児童会と連携した挨拶運動の実施。(年3回)</p> <p>○学校評価の「気持ちの良い挨拶の実施」に関して、肯定的評価90%以上を目指す。</p>	<p>○朝の挨拶運動は計画通り実施。下田小の児童会と連携した挨拶運動も下田小信号前で行った。</p> <p>○学校評価では、登下校の挨拶に対して「気持ちの良い挨拶ができています」と肯定的に評価した保護者が82%、地域の方は93%であった。当たり前の習慣として、挨拶ができる生徒を育成するよう継続して指導にあたる。</p>	3.5	<p>①生徒会のあいさつ運動を継続する。(実施の内容・方法は検討)</p> <p>②再掲:機会ある毎に挨拶・返事、整理整頓ができる力の大切さを伝え、生徒の道徳的実践意欲・態度を高める。</p> <p>③学校評価で保護者・地域からの評価をもらい、生徒にフィードバックする。</p>
	③地域との連携(※学校地域支援本部事業の推進)	<p>○学校地域支援本部会を年間2回開催し、地域との交流・連携等を積極的に推進。</p> <p>○年間を通して授業・各行事の公開。</p> <p>○職場体験学習、福祉施設との交流学习の実施。</p> <p>○防災を探究課題とした総合的な学習の時間の実施。</p> <p>○地域の方と合同学校環境整備の実施(年3回)</p>	<p>○学校支援地域本部会は、年2回下田小中合同で実施し、地域と意見交換を行うことができた。協議も活発で、学校の取組・課題を共通理解する場となった。</p> <p>○本年度は一斉清掃だけでなく運動会や学習発表会等も地域の方が参加しやすい行事となるよう工夫を図ることができ、結果として参加者も増えたことが成果である。一方、地域の方への広報が十分でなかったため、工夫点が地域の方に伝わらなかったことが地域の方からのアンケート結果に表れている。</p> <p>○職場体験や福祉体験等の交流学习は、計画通り実施できた。今年度は総合的な学習の時間の趣旨を踏まえた体験活動の位置づけに留意した取組ができた。</p> <p>○学校の環境整備は、年間を通して実施日を決めていたので、円滑に運営できた。</p>	3	<p>①学校支援本部事業の推進は、今年度の取組を継承し、次年度も地域と協働した取組を推進する。特に<u>情報発信</u>に留意し、<u>取組を地域に周知</u>していく。</p> <p>【情報発信】</p> <p>②<u>学校と民生委員さんとの情報交換</u>ができる場を<u>学期に1回</u>は設ける。</p> <p>③ふるさと教育と防災教育を核とした総合的な学習の時間を実践していくためにも、積極的に地域に関わらせたり、校外へ出て行く活動を仕組む。</p>
〔4〕 働き方改革	①定時退校日の設定と退校時刻の遵守	<p>○毎週、月曜日をPM7時までの定時退校、通常はPM8時までの退校とし、その達成率を100%に近づける。</p>	<p>○指標して定めた午後8時までの退校、月曜日の7時までの退校は、ほぼ100%の達成状況である。小規模校であるので、教職員の勤務状況は比較的ゆとりもあり遵守できている。</p>	4	<p>①<u>学校で定めた指標を継続</u>し、<u>教職員に浸透</u>させる。</p> <p>【退校日・退校時刻の遵守】</p>
	②部活動ガイドラインに基づく部活動運営	<p>○学校便りでの再度の周知</p> <p>○学校評価で、部活動運営に対する保護者からの肯定的評価90%以上</p>	<p>○水曜日、土・日どちらかの部活動休養日(※月8回)の設定はガイドラインに準じて実施できている。</p> <p>○部活動運営に対する保護者の肯定的評価は100%、生徒自身の評価は96%である。</p>	4	<p>①<u>ガイドラインを遵守</u>して効果的な部活運営を継続する。</p> <p>②生徒の人間力を高める手段としての部活運営に努め、<u>他校から目指される部活</u>を目指す。</p>

5	小中連携教育の推進(防災学習等の連携)	<p>○小中合同で地域と一体となった避難訓練等を年間1回以上実施。</p> <p>○小中合同で地域と一体となった地域の清掃活動を年間1回以上実施。</p>	<p>○本校が避難場所となっていることから、小中合同の避難訓練は実施しなかった(小学校が本校に避難する訓練は実施)。小中が連携した訓練がどのようなかたちでできるのか今後協議していきたい。</p> <p>○地域の方も参加してくれた中で、小中合同の地域清掃活動が計画通り実施できた。集合・出発等の時間の周知を徹底していきたい。</p>	3	3	<p>①小中連携は、防災教育という観点だけでなく、授業づくりの方向性、総合的な学習の時間の系統性、合同校内研修の実施等で下田小と連携を深めていく。</p> <p>②地域清掃活動は、竹島小校区の生徒が2名となることから、実施の地域や実施方法を再検討していきたい。</p>
---	---------------------	---	---	---	---	--

4段階評価 (4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する)

## 5. 学校関係者評価

<p><b>【学力向上】</b></p> <p>○色々な課題はあると思うが、学力向上に向けた地道な取組を行っていると感じられる。今後も“ワンチーム”で「チーム会」が組織の風土として定着するように頑張ってもらいたい。</p> <p>○少人数の中、加力学習や補習などを行い学力向上に努力している。継続して学力向上に努力してもらいたい。</p> <p>○予習・復習の量と質については、家庭等の環境によるところが大きいと思われる。学校だけで学力向上は難しいので、保護者に対する基本的な生活習慣の確立・啓発にも努め、各方策を実践し学力が向上することを期待する。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>○いじめ防止について小さいことはあるが、徹底して早期に対応ができていっていると思う。不登校の生徒への対応も、継続して訪問をし、保護者と関わりを持っていくことを期待する。</p> <p>○下田中を含め、市内全体の非行等の問題は落ち着いている。先生方の日頃の生徒指導によるところが大きいと思われる。</p> <p><b>【学校・家庭・地域の連携協働】</b></p> <p>○学校地域支援本部会の取組は、地域の方に学校に関心を持っていただき、ボランティア活動等に参加してもらっており、たくさんの方々が協力してくれている。「</p> <p>○挨拶運動については、毎朝通学時間にウォーキングをしているが、多くの子どもが気持ちよく挨拶してくれる。挨拶運動の成果だと思い、大変評価している。一方で学校を訪問した際に自分から挨拶ができない生徒もいる様子がうかがえる。心から挨拶ができる生徒に育つよう、継続して指導していただきたい。</p> <p>○この地域の先人には、大きな影響を及ぼした人も多い。ぜひその生き方を学び郷土を愛する生徒を育ててほしい。</p> <p>○学習発表会に地域の方の作品を展示したアイデアはとてもよかった。今後も工夫し継続して取り組んでももらいたい。また、行事の地域の広報について、生徒作成のポスター掲示や放送などを工夫してみようか。</p> <p><b>【働き方改革】</b></p> <p>○学力面で課題がある生徒や自己有用感の低い生徒であっても、部活動で秀でたものを持っている可能性もあり、個の特徴や特性を引き出すのも部活動であると考えている。魅力のある学校づくりの観点で、少人数でもできる特色のある部活動を作れば、移住者増や生徒数増にもつながるのではないかと期待している。</p> <p><b>【小中連携】</b></p> <p>○近い将来の南海トラフ地震の発生が懸念される中、下田地区の防災や防災教育は重要な課題。下田中が避難場所・防災拠点になることから、小中が連携して防災教育を推進することは特に重要。</p> <p>○防災学習は地域と連携して良く取り組んでいる。学校の取組は、地域の大きな力ともなっている。また、頼りにもしている。</p>
---